

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第146号(2019. 5. 1)
事務局 川西地区自主防災会

第8回 東北被災地「絆」交流隊報告書

毎年1月になると東北被災地「絆」交流隊参加者の募集を開始いたします。

昨年は新しく応募していただいた生徒さんはわずか4名足らずで、新しく応募していただける生徒さんがいてくれるのか少し心配いたしておりましたが、今年初めて参加していただける生徒さんは6名で、再度応募していただいた方を含めて総勢32名という多くの方に参加していただきました。

年々応募していただける生徒さんの人数が減少傾向にあり、震災の記憶も過去形になりつつ風化していくのではないかと危惧いたしております。

日程等は下記の通りとなっております。

3月23日(土)

午前7時に丸亀市役所を出発。

瀬戸大橋から山陽道に入り、北陸道へ。

この日は快晴に恵まれ日本海を眺めながら新潟県三条市 越前屋ホテルに到着。

3月24日(日)

午前6時30分起床。外は一転して雪化粧。昨日とは打って変わり寒い朝を迎えました。

次の目的地への移動途中、磐梯SAにて休憩。

さすが生徒達！雪を見て寒がるどころか逆にハッスル。はしゃぎながら雪合戦を行っていました。

午後1時30分。旧門脇小学校付近で東日本大震災でお子様を亡くされた佐藤美香様、西城様ご夫妻と合流。

2011年3月11日午後2時46分に発生した東日本大震災。地震後、園児を自宅に帰そうと石巻市にある日和幼稚園の送迎バスに園児12人を乗せ、園を出発。

その後、門脇小で7人を降ろした後、大津波警報に気づき園に戻る途中大津波



に巻き込まれ園児5人が亡くなりました。

その当時の様子を詳しく聞かせていただきました。天災が引き起こした悲劇かも知れません。しかし、防災訓練を日々の生活の中に取り入れてさえいれば全員助かっていたかもしれません。

それだけに、遺族の皆様の心中を察するあまり、かける言葉も見つかりませんでした。

「とにかく逃げる事です。高い所へ逃げる事です。」「命を失ってはダメ！」

小さな子供は判断ができず大人に付いていくしかないのです。

今も無傷で残る日和幼稚園。そこから少し離れた所にある門脇小学校は全焼ですが、日々の防災訓練が生かされ全員無事でした。

私共は佐藤様、西城様ご夫妻と別れ、震災後、教職員・児童を含め多くの方が犠牲になられた大川小学校へと向かいました。

ここでは毎回お世話になる石巻市在住の近藤様ご夫妻とお会いしました。

今日は、3月下旬とはいえ気温は0℃。少し強めの風が吹き周りの土砂を巻き上げ、荒廃した大川小学校の惨状に震災前の賑やかさを想像する事はできませんでした。

その後、慰霊碑に全員で手を合わせ当時小学校5年生のお子様を亡くされたお父様からお話を伺うことができました。

「助かっていた命」聞くにつれて無念さが私達の心に伝わってくるのです。

小学校6年生は震災発生時、裏山に駆け登り待機していたのです。

一部の報道で、裏山の道は急で低学年の生徒は登れなかったという見方は間違っています。登れる道はあり、小学校6年生のみ、いち早く駆け登っていたのです。





しかし、先生の指導で一旦運動場に戻され 30 分経過すれど先生方の結論が出ず、最後に出た結論が河口の橋の方向でした。そこで多くの人達が犠牲になりました。

ここにも防災訓練が生かされず、「まさか」の油断が惨劇を招いたのです。



その後、私共は大川小学校を後にして、石巻市雄勝町第 2 仮設住宅へと向いました。

毎回お世話になる名振地区の皆さん。久しぶりに何人の方とお会いできるか期待に胸を膨らませ到着すると、仮設住宅は一軒もなくそこは広々とした空き地。皆さん新しい住居を構え移り住み、仮設住宅は今年 3 月までに全て撤去されており集会場だけが残されていました。



到着後は生徒リーダーを中心にミーティング。掃除班・うどん班・食事班などに分かれ手際よく作業にかかりました。作業中、皆さんおしゃべりしながら準備を進めていきました。

やがて名振地区の皆様が集会場に集まり始め、久しぶりの再会に生徒達にも自然と笑みがこぼれていました。2 回以上

参加の生徒達には嬉しい出会いの始まりです。

長テーブルにはうどんをメインとし、皆様から差し入れていただいたわかめなどの海産物をおかずにお懇親会が始まりました。

ここからは生徒達が考えてきた歌やクイズ、ダンスなどの催し物の出番です。

司会も、催し物も生徒達の自主運営で進めてまいります。この時、一番笑い声



で満ち溢れ、名振地区の皆様と一つになった様な気がします。

1日が終わり就寝前のミーティングが始まり、それぞれが今日1日の感想を述べ合いました。



3月25日（月）

午前6時30分起床。全員で食事の準備から後片付けをし、旅立つ前の掃除は念入りに行いました。

見送りに来ていただいた名振地区の皆様との別れを惜しみながら、私共は次の視察現場である南三陸町へと向かいました。



南三陸町では高台にある志津川中学校より、被災地現場の復興状況を見ながら現地の元小学校校長、村岡氏より説明を受けました。

南三陸町には大量の土砂が持ち込まれ、唯一被災を受けて残されている防災対策庁舎も、かさ上げされた土手からわずかに見える程度でした。

高い地盤に作られたさんさん仮設商店街。日曜日にもなると、大勢の人で賑わっているようです。多くの家や家財を失い生活が一変する中で、一見普段通りの生活を取り戻しているかのようですが、震災後に残された多くの課題に直面しています。

私達の「絆」交流隊の活動を振り返ると、生徒さん達は、実際に自分の目で見て被災された方々の生の声を聞かせていただき、これから来る南海沖大地震に対する備え・家族の絆・地域の連携のあり方などを、生徒さんなりにどうあるべきか、どうすべきか考えていただけたのではと思っています。



3月26日（火）

午前7時。丸亀市に無事到着いたしました。

東北へ視察に行くにあたり、関係者皆様のご協力に心より御礼申し上げます。

うどん県青少年東北被災地「絆」交流隊
責任者 山倉 康平

今月より令和がスタートしました。改めてよろしくお願いいたします。

「自治会加入 V字回復物語」の解説

過日（4月24日）開催された香川県連合自治会第44回表彰総会の事例発表で、「自治会加入 V字回復物語」と題して、事務局を担当している「チームかわにし」のメンバーが発表し大きな反響を呼びました。この会報も自治会関係者が多いことから「V時回復」の要因等について述べたい。

◎まず自治会に入会しない原因

- ・会合が多くて仕事に差し支える。
- ・役員になるのがイヤだ。
- ・無理やり神社の氏子にされる。
- ・入会金が高い。
- ・水路清掃などに駆り出される。

以上のような入会を拒む要因を取り除いた新しい自治会組織を設立することが、まずは加入率を改善する大切なことであった。

◎新しい自治会組織（コミュニティ自治会）の設立をPR

- ・小学校エリアを組織エリアとする。
- ・コミュニティ自治会が取り組む業務（仕事）は
 - ①赤い羽根共同募金
 - ②日本赤十字社資募集
 - ③「チームかわにし」として災害備蓄活動に参加
 - ④「チームかわにし」の一員として土器川の環境活動
- ・年会費は、一世帯 3,000円
但し、80才以上の高齢者のいる家庭と、18才未満の児童を扶養するひとり親世帯は年会費を1,000円とする。
- ・コミュニティ自治会の役員はすべて川西地区連合自治会の役員が兼務する。
但し、コミュニティ自治会員の中でリーダーシップを発揮できる人材が育成できれば、自立独立を図ることとしたい。

- ・災害時の連絡体制も考慮して10~15世帯単位に班長制度を設け、大災害時の率先避難役（人）を担う

◎新しい自治会組織を積極的にPR！ 重ねて未加入世帯へ訪問活動を展開する

○新しい組織（コミュニティ自治会）のPR

- ・ポスター ・チラシ ・のぼり ・大型看板 ・広報車

◎訪問活動

- ・訪問活動時の基本マナー（名刺、挨拶、服装）に気を配る
 - ・プレゼンの内容を明確に伝える
 - 1) 「チームかわにし」への参画
 - 2) 大災害時の安心安全
- } 家族を守るための訴求
- ・最後に「かわにしパスポート」の利点をPRすると、行政サービス（防犯灯やカーブミラーの設置、危険箇所の防護柵等）の案内

◎成果のポイント

- ・2~3年成果が出ない期間を組織として耐えること
- ・責任者（準責任者含む）は取組みへの熱意を失わないこと
- ・責任者が先頭を切ることで、チーム力のアップが図られ大きな成果につながる

◎取組みの結果

・平成25年度末・・・加入率41.5%



・平成30年度末・・・加入率51.5%

10%アップ！

編集後記

今月の防災・減災の輪は、株式会社山倉建設 代表取締役 山倉 康平様の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。